

平成28年度母子保健指導者養成研修

津島市の母子保健計画



つし丸



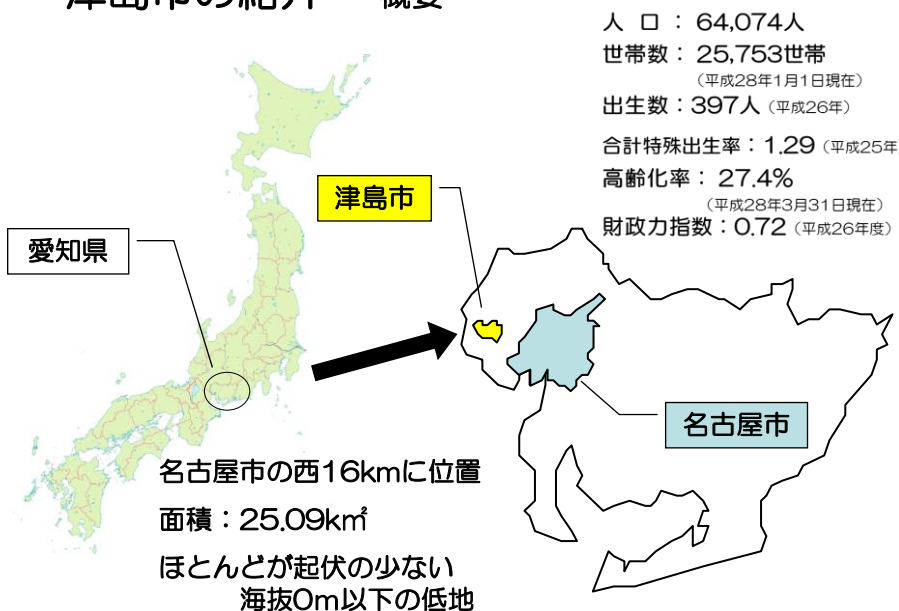
ふじか



マッキー

津島市健康推進課
保健師 松尾くみ

津島市の紹介 ～ 概要 ～



津島市の紹介 ～ 概要 ～

門前町、湊町、毛織物産業の中心地として発展



計画を立てるまえに

そもそも・・・計画を作る必要ある？

現場のつぶやき

- 「事業は法律や国の通知に従ってひととおり実施している。」
- 「どうしてもやらねばいけないことは決まっており、国から必要なことは通知がくる。それに沿ってやっておれば、それほど他市町村から外れたことにはならない。」
- 「絵に描いた餅をつくることに何の意味があるか」
- 「ただでさえ忙しいのに、優先してやるべきことか（怒）」

1つ1つの事業はていねいに取り組んでいた

強み

- 妊娠期～子育て期の支援の流れを作った。
(赤ちゃん訪問は子育て部門が主管。妊娠前のふるい分けを研究し、市独自の支援優先項目を作る。連携の流れを整えた)
- 思春期教育を学校関係者と連携し、小中学校全校で実施。
- 発達支援の流れを子育て部門や福祉関係者とつくってきた。
- 虐待予防、養育支援の窓口が子育て部門におかれ、役割分担を進めてきた。



弱み

母子保健として地域をみて、地域づくりをしているか？

裏をかえせば・・・気づいたこと

国の通知にしたがってやっていたらおかしい方向にはならないが、

- 事業ごとに完結してしまい、市の母子保健全体として見る視点が弱かった。
- 母子保健計画はあるが、普段の事業に生かしていない。

当時の津島市の弱点
金ない、人ない、根拠ない、進む方向ない

どっちを向いて仕事をしたらいいのかな？

事業の内容を考える時、実施結果数値やアンケート、他市町村の様子を参考に改善を考えるが、これでいいのか。

事業やケース等で関わる中で直面する課題は分かるが、地域全体のことがよく分からない。

これから先、市の母子保健をどの方向性ですすめればよいか。



なぜか

母子保健全体をみた課題がどこにあるか把握していなかった。

計画を作るなら ~これならできそう~

目的：少しでもいい方向へ向かうための評価と計画づくり

- | | | |
|--------------------|---|---|
| 実用的 | → | 実用的、継続して使い続けられるもの |
| 事業にいかせる | → | ちょっと頑張れば実現できそう
できたらいいなと思うもの
事業にすぐいかせるもの |
| 労力かけない
事務量増やさない | → | 今あるもの（事業データ）
すぐ分かるもの（アンケート集計結果）
時間をかけない
できる範囲の事をする |
| 国の計画をマネる | → | 国と方向性が同じもの
柱立て、指標の取り方合わせる |
| 統計分析しない | → | 傾向がおおまかに分かればよい
統計分析はしない。 |

まずやったこと

- 1 計画の位置づけ
- 2 関係機関との調整
- 3 新計画の指針と指標の整理
- 4 評価方法の検討

1 計画の位置づけ

今までの母子保健計画策定の流れを整理。

法律と他計画との関連をみながら、課として母子保健の新計画をどこに位置付けるか。
次世代育成計画か健康日本21計画か、母子保健計画単独作成か課内で検討。



次世代育成支援計画に母子保健計画を位置付けることに決まる。

(参考にしたもの)

- 次世代の指針
「母性並びに乳児及び幼児等の健康の確保及び増進について「健やか親子21」の趣旨を十分に踏まえたものとする」
- 子ども子育て支援法H27施行
「妊婦健診が虐待防止の観点として創設すべき」
- 厚労省 雇用均等・児童家庭局 「母子保健計画について」(通知) H26
「子ども子育て支援新制度、次世代育成支援対策推進法の動向を踏まえる必要がある」

2 関係機関との調整

次世代育成計画の一部を母子保健計画が担っていることの確認
担当者が変わり関係性が途切れていた。

次世代育成計画の後期計画（H26まで）の次期計画として、子ども子育て関連3法に基づく「津島市子ども・子育て支援事業計画（H31まで）」の準備が進められていた。

予算は子育て支援課についていた。
すでに、評価のための市民アンケートは終わっていた。

健康推進課の母子保健計画はないものになっており、再度調整が必要だった。



「津島市子ども・子育て支援事業計画」に母子保健計画を入れる。

3 新計画の指針と指標の整理

新計画の指針は健やか親子21第2次と同じ5本柱。

今までの母子保健計画の指標の整理。

H15.3月 津島市子育てプラン 母子保健37指標

H17.3月 次世代育成支援行動計画 母子保健35指標

H22.3月 次世代育成支援後期行動計画 母子保健13指標

H27.3月 （新）津島市子ども・子育て支援事業計画 母子保健？指標



評価する基準指標はH15.3月策定した、健やか親子21に基づいて
立てた津島市子育てプラン 母子保健37指標とした。

4 評価方法

津島市子育て支援プラン（H15.3月）の
健やか親子21に基づいてあげた3つの課題37指標について、
事業結果、健康かるて、アンケート（H26.4～6月実施）集計より
最新データを出し、市の過去のデータや目標値との比較、国の最終値
との比較を国の最終評価に従って実施。

3つの課題	思春期： 思春期からのこころとからだの健康づくりの推進（10指標） 妊娠出産期： 安心して迎えられる妊娠、出産の支援（10指標） 子育て期： ゆとりをもった子育てと健やかな子どもの成長への支援（17指標）
-------	--

指標の評価	改善した。目標値を達成した。 目標値には達していないが改善した。 変化なし 悪くなった 評価できない
-------	--

指標の目的

- 1、母子保健計画の最終評価
- 2、（新）母子保健計画作成のための新指標

健やか親子21
第2次の表現
に合わせる

新指標の取り方・・・別紙

- ① 津島市子育て支援プランであげた37指標のうち、健やか親子21第2次でも指標にあげられているものは、今後も継続して推移をみていく項目として考え、新計画の指標にあげる。
- ② 健やか親子21第2次の5課題の指標を1つ1つ確認し、新たに市の指標として取り上げた方がよいと考えられる指標をあげる。
- ③ 国にならない、最終評価で終了する指標でも、市の最終評価の結果から、「悪くなった」指標や市の課題として取り上げたい指標はあげる。

新計画 新指標 5柱 37指標

アンケート作成

アンケートは、新計画 新指標 5柱 37指標で決めた項目のうち、事業実績など、いまあるもので取れない内容のみをアンケート。

アンケート対象

- 思春期 ••• 思春期アンケート 中1、中3生徒と学校関係者
- 妊娠・出産期 ••• 乳児アンケート 乳児健診等の産婦
- 子育て期 ••• 乳児、幼児アンケート 乳幼児健診の保護者

質問は健やか
親子21第2次の
表現に合わせる

アンケート内容

「健やか親子21」最終報告書、「健やか親子21（第2次）」について
検討会報告書を参考に作成。

アンケート実施

対象者	配布先	回収数	配布数	回収率
乳児	4M健診 (月2回)	117	会場での手渡しのため、 正確な母数が把握不能	-
	BCG			
幼児	1.6児健診 (月2回)	203	4月分は会場手渡し 5月は、78人送付 (1.6歳：37人 3歳：41人) 6月は、68人送付 (1.6歳：33人 3歳：35人) 2歳児健診は会場手渡し	-
	2歳児歯科健診			
	3歳児健診 (月2回)			
中学1年、3年生	学校教育課と調整	中1：125 中3：140	※①	-
学校関係者	//	小学：8校 中学：4校	※①	100%

※①市内小中学校…中学1年生、3年生ともに各校から任意の1クラス 学校関係者は各校1件

評価結果

全体の単純な比較（参考程度）
3課題ごとに市の改善状況を国と同様にみる。

	思春期	妊娠出産期	子育て期	計	%
改善した 目標値を達成した	2	0	3	5	13.2
目標値には達して いないが改善した	0	4	9	13	34.2
変わらない	3	2	0	5	13.2
悪くなった	1	1	4	6	15.8
評価できない	4	3	2	9	23.7
計	10	10	18	38	100.1

※子育て期の指標は17だが、1指標に評価が分かれるものもあり18。

評価結果

津島市における最終評価（H26年度）概要

※国の水準以下 ●国との比較なし

改善した（目標値を達成した）

- ・朝食を欠食する子どもの割合の減少●
- ・1人あたり平均むし歯数（12歳）の減少●
- ・むし歯のない3歳児の割合の増加
- ・定期的な歯科医院への通院（治療は除く）をしている3歳児の割合の増加●
- ・甘いおやつや飲み物を1日3回以上食べる習慣のある3歳児の割合の減少●

改善した（目標に達していないが改善した）

- ・妊娠中の喫煙率の減少 ※
- ・妊娠中の飲酒率の減少
- ・妊娠から出産まで経過について満足している者の割合の増加
- ・妊娠から出産まで自分に必要な情報を十分に得られた人の割合の増加●
- ・乳幼児健康診査に満足している者の割合の増加
- ・乳幼児健康診査の受診率の増加
- ・3歳までにフッ化物塗布を受けたことがある児の割合の増加●
- ・1歳までにBCGの予防接種を終了している児の割合の増加※
- ・1.6歳までに三種混合の予防接種を終了している児の割合の増加※
- ・1.6歳までに麻疹の予防接種を終了している児の割合の増加
- ・事故防止に取り組んでいる家庭の割合の増加
- ・虐待をしていると感じている者の割合の減少

悪くなっている

- ・性感染症やエイズについて「よく知っている」と思う者の割合の減少●
- ・妊婦歯科健康診査の受診率の減少●
- ・全出生児数中の低体重児の割合の増加
- ・産後うつを感じる者の割合の増加●
- ・育児に自信が持てない者の割合の増加※
- ・ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があるものの割合の減少

明らかになった市の課題

思春期の課題

- ・欠食、孤食、痩身傾向。
- ・生徒の自己肯定感が低い傾向。
- ・前回調査より性感染症の知識が低い。

妊娠出産期の課題

- ・国と同様に低体重児の割合の増加傾向。
- ・出生数が大幅に減少。(H14 713人→H25 402人)
(晩産化傾向 35歳以上の妊婦が増加。H25妊娠届出書35歳以上27.5%10代3.3%)

子育て期の課題

- ・育児の相談先がある人、父親の育児参加の割合は増加しているが、育児の自信がない親が増加。
- ・子どもとゆったり過ごす時期がある者の割合が少ない傾向。
- ・育てにくさを感じている親は半数あり、子どもの定型の発達を知っている割合が低く、育児に自信の持てない割合が高い傾向。
- ・産後うつも「どちらかといえば感じる」と答える人が増加しており、漠然とした精神不安や、育児不安を抱える親が増えている傾向。

いろいろ課題はあるけれど

国の課題

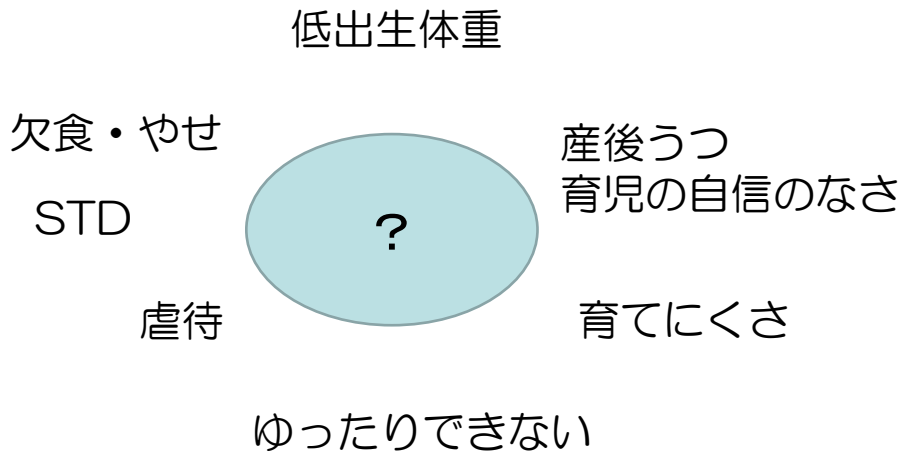
- ・10代の自殺
- ・低出生体重児
- ・児童虐待

こんなことに取り組んでみたら、よさそうだ。

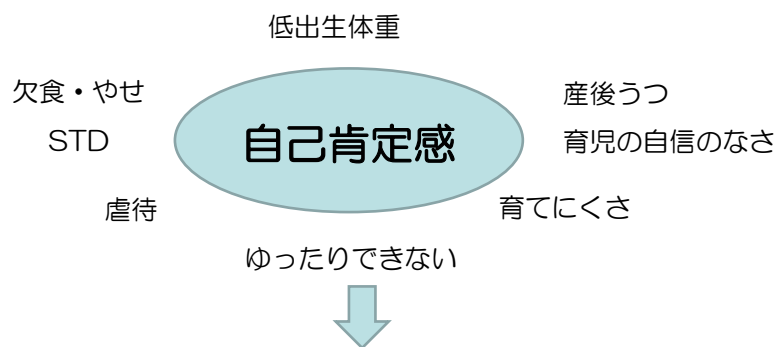
市の課題

- ・低出生体重児
- ・産後うつ
- ・育児に自信が持てない
- ・ゆったりとした気分で子どもと過ごせる
- ・育てにくさを感じた時に対処できる親の割合
- ・虐待をしていると感じる者
- ・思春期 朝食欠食、やせ傾向 STD、エイズについての認識度低下

では、課題にどうアプローチしようか？



仮説を立ててみた



仮説：

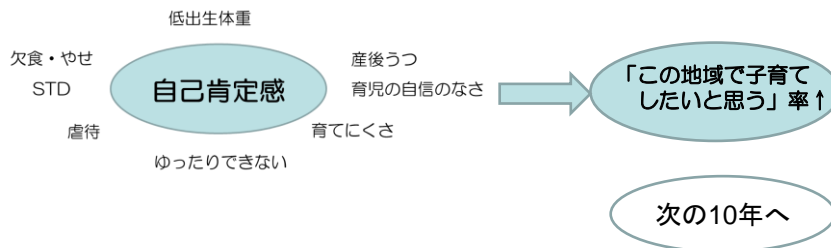
課題には自己肯定感の低さが共通し、影響を与えているのではないか

方向：

自己肯定感の底上げへのアプローチを思春期、妊娠、出産、育児期
全てのサイクルからしていく

母子保健の目標を立ててみた

- 1、自己肯定感の底上げを意識した事業を各ライフステージで継続実施し、市の課題の改善につながるようにしたい。
- 2、次世代育成支援の基「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」（新指標）について、母子保健だけが影響するものではないが、増加を目標の一つとしていきたい



湧いてきた？事業案

まずは、こんな取り組みをしてみよう



ライフサイクルにおける自己肯定感向上へのアプローチ

低出生体重児の割合を減少させる対策

産後うつを感じる割合を減少させる対策

育児に自信がない、ゆとりをもてない漠然とした不安へのアプローチ

育てにくさを感じる親へのアプローチ

計画を作ることが目的ではない

実施したこと

- アンケート調査や事業結果から市の指標値を出し、国と比較
- 市の課題を把握
- 今後の母子保健の方向性を国の方針と照らし検討
- **母子Gで目標を共有し、事業展開へ**

使用したもの	25.11月	「健やか親子21」最終報告書
	26.4月	「健やか親子21（第2次）」について検討会報告書
	26.11月	「健やか親子21（第2次）」の指標及び目標の決定 並びに今後の調査方法について（通知）

津島市の母子保健



4か月の赤ちゃんの保護者の方へ

赤ちゃんのいる生活は慣れましたか？
生まれた時は抱っこばかりだった赤ちゃんも、声を出しておしゃべりしたり、お母さんやお父さんの目をみてにっこりしたり、触れあうのが楽しい時期です。

大切にしたい、赤ちゃんとのスキンシップ
赤ちゃんはアーアー、ワーワーとお話しています。それに反応すると赤ちゃんはとても喜びます。この働きかけが、お互いの愛情や信頼感を深め、赤ちゃんの社会性やことばの発達の上にもなります。赤ちゃんの顔をのぞきこんでいっぱいお話してあげてください。

赤ちゃんはスキンシップが大好きです。赤ちゃんが近くときは、ほかに自分の気持ちを伝えている時です。抱いてもらえるのが安心します。赤ちゃんが抱いたら抱っこしてあげてください。

「抱え込んでいませんか？あなたの子育て」

全国の育児を取り巻く状況
少子化 高齢化 遅婚化 家族構成の変化

津島市の育児状況を調査しました。

「こんな悩みがかなり多い」と

母乳のいる家庭で乳首のドクを自分でつけることができないうまくない家庭の割合が最も多くなっています。

産後うつを「どちらかといえば感じる」という人が増えています。育児に自信が持てないと感じる人が増えています。産後うつ率は2.5倍、産後うつ率は2倍、津島市は高くなっています。

子育ての人が、育てにくさを感じており、感じている方の育児の自信、子どもの発達過程を知っている事は低くなっています。

津島市子ども子育て支援事業計画アンケート調査(126名回答)

家庭外からの子育て支援を求めることが必要な時代です。ひとりで抱え込まず、ぜひ周囲に相談をしましょう。

問い合わせ先：津島市保健センター ☎0567-23-1551

生きているだけで満点

あなたは生きているだけで満点です
そのことを知っていますか
時々、大人はそのことを忘れるのです。ですからあなたは自分で自分の心に言っておいてください。
「私は生きているだけで満点なのよ」
「僕は生きているからそれだけで満点なんだ」とね。
なぜだと思いませんか。
なぜなら、私たちは皆、この世で生きるために生まれてきているからです。ですから、生きているだけで満点です。
あとはそれぞれ、一人ひとりが喜びのある冒険をいっぱいしてこの世のことを学びたいだけ学んで寿命をまっとうすれば良いのです。
満点のあなたが、まず、したい冒険は何ですか。

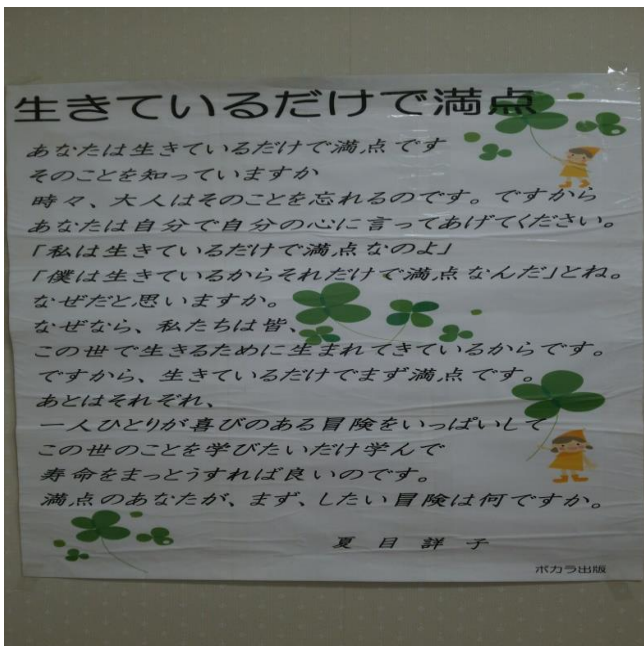
夏目 隼子 (おかわり)

子育ては、ひとりで悩まずご相談ください。

<p>津島市 家庭児童相談室 ☎ 0567-24-0330 津島市上之町1-60 (総合保健福祉センター 3階)</p>	<p>津島市 保健センター ☎ 0567-23-1551 津島市上之町1-60 (総合保健福祉センター 2階)</p>
<p>津島市 西地区子育て支援センター ☎ 0567-24-0005 津島市上之町1-60 (総合保健福祉センター 1階)</p>	<p>津島市 東地区子育て支援センター ☎ 0567-24-1201 津島市萩原町榎木5 (生涯学習センター 1階)</p>

4か月健診集団指導





作ってみると

～現場保健師の感想いろいろ～



- ・迷ったら立ち戻り、確認する
- ・ブレずに事業を進めていける
- ・市の母子保健の課題が共有できる
- ・同じ方向性、共有、グループの団結、結果を事業に生かすことに向けてすすめた
- ・同じ方向に向かってそれぞれが団結できた。
計画作成後、同じ方向を向いて事業が回せるようになったことがよかった
- ・日々の事業でも指標項目がのびていと嬉しいし、指標であげている項目に自然と意識もいくようになった
- ・ケース支援でも自己肯定感の低さが問題の根本の人もいる。計画で自己肯定感に向けて事業アプローチを
していることで、こういったケースをできるだけさないためにしているのだと一貫性を感じる
- ・何となく事業を通じて感じていたことがデータとして裏付けられると自信持てできた、
評価を意識して事業ができるようになった
- ・市の母子保健が何を大きな目的として動いているのか、どこに向かいたいのかが分かるので、
自分の担当事業の内容検討にいかなせる
- ・新人研修のチェックリストで地区把握が課題にあがるが、○をつけることができた
- ・PHNと事業や地区の事を話し合う機会が持てたことがよかった
- ・今の状況を少しでもいい方向へ変えていくための評価と計画づくりだと思っていたので
検定など統計処理はしなかったが、傾向が分かればそこにどう働きかければいいのか考えることができる
そこを大切に自分たちに負担を与えないことも良かった。

おわりに

キーワードとなった「自己肯定感」は保健師の日ごろの業務の中で何となく「感じていたこと」が形になった言葉だった。
国のマネではない市独自の地域を見る視点を持てた。

課題の根底にある原因は何か、仮説を立てたことで、
1つの方向をみんなで共有でき、事業への取り組みがしやすくなった。

事業の整理が根拠をもってできるようになった。

関係機関に母子保健の課題を発信できるようになった。
お互いに助け合いましょうの連携につながれるようになった。



ご静聴ありがとうございました。